

成果報告書

I. 研究概要

氏名	DAO THI NGA MY
所属	ハノイ国家大学外国語大学東洋言語文化学部日本語学科（通訳翻訳副部門長）
招聘回（招聘期間）	第6回（2011年10月1日～2012年3月31日）
招聘研究テーマ	第2言語としての日本語・ベトナム語学習における母語の影響
研究目的	本研究は、ベトナム語母語話者が日本語を学習する際、また日本語母語話者がベトナム語を学習する際に母語からどのような影響を受けるかを明らかにしており、第2言語としてのベトナム語・日本語の教育や教材開発に資することを目的とする。

研究概要：

ベトナム語と日本語の両言語には中国語起源の語、いわゆる漢語が多く存在している。その漢語の数は、日本語では語彙全体の5割以上、ベトナム語では語彙全体の6割以上占めているといわれている。この日越両言語の類似点から、ベトナム語母語話者が日本語を、または日本語母語話者がベトナム語を学習する際、親しみが感じられ有利であると考えられる。両言語の造語機能の類似性から、ある程度漢字と対応する漢越語の知識があれば、たくさんの2字漢語が造語できる。しかしながら、ベトナム語母語話者が日本語を、また日本語母語話者がベトナム語を学習する際、母語からの正の転移を受ける反面、負の転移も避けにくいと考えられる。

本研究は、ベトナム語母語話者日本語を学習する際、また日本語母語話者がベトナム語を学習する際に母語からどのような影響を受けるかを明らかにするため、以下の3つの調査を行った。

- 1) 日本語の文中の「漢語」に関する正誤判断テスト
- 2) 日本語の文中の「漢語」の対訳のアンケート
- 3) 「漢語」を含む日本語の文章の読み課題

1) ではベトナム語母語話者 104 名と日本語学習者 34 名を対象とし、文中の「漢語」の適切性について回答するものであり、①「漢語」カテゴリーごとの正答率、②ベトナム語母語話者とそうでない学習者の回答の傾向を分析し、結果として①正答率は、高→低の順で、意味が日越両言語で異なる語彙、意味が共通する語彙、ずれがある語彙となっていること、②ベトナム語母語話者は未習語彙であっても、「漢語」の知識を活用して正答を導く傾向があり、ベトナム語非母語話者より正答率が高いこと、などを明らかにしている。ベトナム語非母語話者との比較により、ベトナム語母語話者の特徴を明示し、先行研究をさらに進めた分析が行われていると言える。

2) では東京外国語大学のベトナム語専攻の日本人学生 29 名を対象とした研究で、日本語の文中の語をベトナム語に訳出する課題を行う時の、①学年とカテゴリーごとの正答率の分析、②ベトナム語の「漢語」の知識の活用程度の検討を行っている。分析は現在も進められているが、これまでのところ、①日越両言語で意味が共通する語彙の訳は正答率が高いこと、②抽象度の高い語彙（日本語能力試験1級語彙）と低い語彙（3級語彙）とでは、正答率の高低の傾向が異なることや、学年による正答率の異なりが見られること、が示された。

3) は「漢語」を含む日本語の文章を、ベトナム語母語話者（9名）と非母語話者の学習者（11名）、日本人母語話者（4名）がどのように読むかについて、読解中の目の動きをアイカメラでとらえた調査である。現在は、得られたデータの整理と分析が進んでおり、個人差はあるものの、中級・上級レベルの学習者の軌跡から、上級で

は中級より注視の回数が少なくなること、注視から注視の移動の速度が速くなること、が認められた。読解後のフォローアップインタビューで「漢語」知識の活用の度合いも調べられ、理解と処理過程との関係づけに関する分析が行われるものと考えている。

展望：

将来的には本研究の結果を元にベトナム語母語話者の日本語学習・日本語母語話者のベトナム語学習向けの教材開発と語彙の指導に応用できると考えられる。具体的にはどのような順番で語彙を指導すれば学習者の語彙量を早く増やすことができるのか、読解教材などで母語をスキーマ活性化にどのように活用すればより効果的な授業をするのかを考え、教材・指導法を開発したいと考えている。